

## 国立曽爾青少年自然の家について

青少年教育施設における  
教科等と連動した  
森林ESDの受け入れ態勢整備

全国に28か所ある国立青少年教育施設のうちの一つです。  
奈良県宇陀郡曽爾村（ならけんだんぐんそにむら）にあります。



ここが曽爾（そに）



ここが曽爾村



国立曽爾青少年自然の家  
高瀬 宏樹

〒633-1202  
奈良県宇陀郡曽爾村太良路1170  
TEL 0745-96-2121 <https://soni.niye.go.jp/>



## 地域の現状から①

### 奈良県

- 森林面積の割合が全国第5位（76.9%）
- 吉野川上流域は、有数の優良材生産地
- 林業就業者の減少と高齢化
- 森林の荒廃



### 曽爾村

- 総面積の約86%を豊かな森林が占める
- 自然環境保全のため、年1回、曽爾高原（ススキ）の山焼きを実施
- 後継者がほとんどおらず、山を守るためにも新たな人材の育成が急務

## 地域の現状から②

### 奈良県では、

重要な役割を果たす森林を県民全体で守り育てていくため、森林環境教育を推進。



### 国立曽爾青少年自然の家は、

施設を利用する学校に対して、曽爾村の自然環境を活かし、教科と連動した森林環境教育を実施している。

## 教科等に関連付けた体験活動モデルプログラム開発事業

### 取り組みの例：名張市立Y小学校（三重県）

森林環境学習×社会科  
野外炊事×家庭科【H29作成 指導案】

〈すすめかた〉

校内での取組	曽爾での取組	校内での取組
事前学習（導入）	体験活動プログラム（展開）	事後学習（まとめ）
事前学習（導入・展開）	体験活動プログラム（展開・発展）	事後学習（まとめ）
	体験活動プログラム（導入・展開）	事後学習（まとめ）

施設職員と学校側の教員が打ち合わせをして進めていく。  
自然の家での指導は施設職員が、事前学習と事後学習は教員が、主となり進めていく。

## 体験活動プログラム「森林調査隊」について

- 連携校 三重県名張市立Y小学校 5年生73名  
5/17～18実施
- 関連する単元 社会科 「わたしたちの生活と森林」
- 単元目標 森林が国土の保全などに欠かすことのできない資源として重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。
- 集団宿泊活動として学習することのよさ
  - ・五感を使い森林の良さや問題点を**実感**することで学習効果を高め、深い学びへとつながる。
  - ・森林での**活動時間を確保**することで、児童が**主體的**に課題を追究、課題解決へと向かうことができる。

- 自然の家で学習する際のねらい
  - ・自然のまわりの特徴や、森林管理の大切さを理解することができる。

## 自然の家での学習の様子

「導入」 割り箸から森を考える

最近、レストラン等では使われることが減っているけどなぜだろう？

使えば使うほど森林がよみがえってどういふこと？

曽爾の森は元気なのか調査しよう！

木を切ることは悪いことなの？

木を切って作るから環境破壊につながるのでは？



## 自然の家での学習の様子

木の調査（針葉樹と広葉樹のちがいを知ろう）



形のちがいを観察しながら葉を取集する



葉の形から木の種類の調査する

森の多様性を知る

森の調査（樹冠、明るさなどを調べよう）



Aの森（二次林）の調査



動物がいた跡を探す（Aの森）

手入れの行き届いた森は、元気な森。元気な森にするためには間伐が重要

## 自然の家での学習の様子

「活動」 丸太の輪切りに挑戦

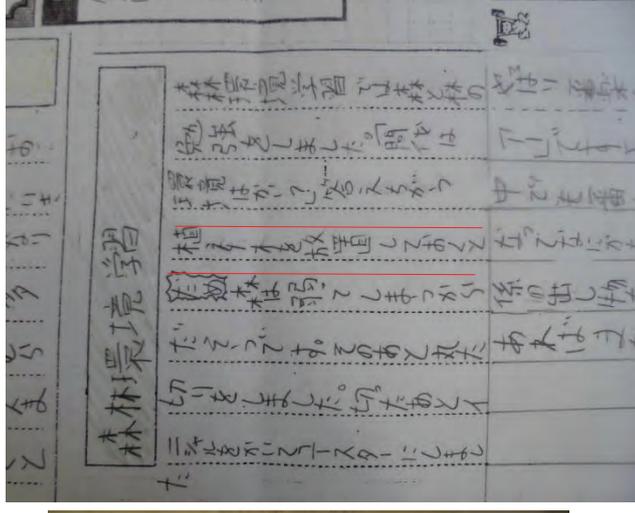
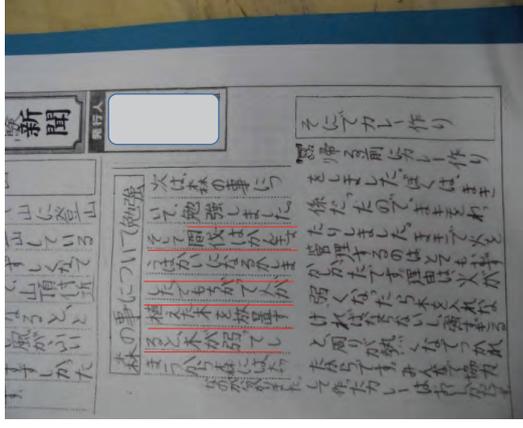
間伐材の活用について考えるきっかけに！



## 学校での学習

まとめ新聞作り

【個人で】



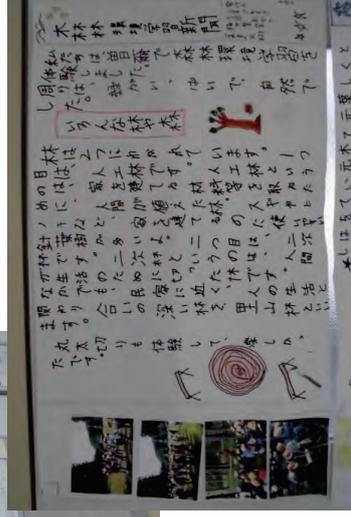
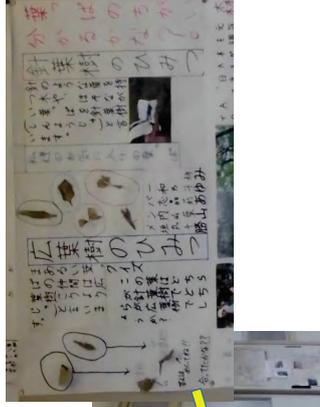
## 学校での学習

まとめ新聞作り

【グループで】



## 国立曽爾青少年自然の家



ありがとうございました

↓ お問い合わせ・ご連絡は  
国立曽爾青少年自然の家

担当：高瀬宏樹

〒633-1202

奈良県宇陀郡曽爾村太良路1170

TEL 0745-96-2121

[h.takase@niye.go.jp](mailto:h.takase@niye.go.jp)

<https://soni.niye.go.jp/>

最後に（Y小の先生とのふりかえりから）

- 「教科の授業」のねらいを意識して曽爾での活動ができた。
- 体験を伴う森の中での学習に意欲的に取り組むことができた。
- 指導計画やワークショップの提示、事前協議により見通しを持って活動することができた。
- 教室での授業だけでは得られない気づきや発見があった。
- 時間に余裕がなかった。（5月中旬に実施したため学校側の準備が大変）
- 体験プログラム実施後の学習につなげていくためには修正も必要である。



国立曽爾青少年自然の家では、この取り組みを**持続可能なしくみ**にしていきたいために、**三重県森林インストラクター会**と連携してさらなるプログラム開発と、指導者養成の取り組みを進めています。